

目的 現代社会における消費者の被服に対する好みの多様化、個性化、高級化等に伴い、多品種小ロット短サイクルの生産体制の確立の必要性が唱えられている。このような現状を背景として、多くのメーカーにアパレルCADシステムの導入がなされてきている。本研究では、このアパレルCAD（東レ、アパレルデザイン装置（以下、ACSと称す））を用い、既製のワンピースパターンを、個人の体型情報に基づいてACS画面上で個人用に修正し、仮縫・補正を必要としない被服の製作を試みる。そのパターンは、アパレルメーカーの既製服製造ルートで個人服を製作し、着用実験及び検討を行った。

方法 パターン作成における個人の体型情報を得るために、原型として既製の密着型被服原型を使用することとする。被験者は成人女子2名である。この原型は体型情報を単なる数値としてではなく、平面として捉えているため、パターンメイキングを行う際大変有効と思われる。原型を基に、人体と衣服を同心円と仮定した時のそれぞれの円間の差をゆとり分量として、個人のワンピースパターンを作成した。さらに、縫代付、メイキングを行う、指示書と添付して、被服の仕立をメーカーに依頼した。

結果 着用実験の結果、被験者2名とも、後身頃の背中周辺に多少縦じわが認められたが、その他は目立たず見当たらず、個人の体型情報が十分被服に反映されていることがわかった。また、2名の被験者のそれぞれのパターンを交換して、自分のサイズにグレーディングし直したもので着用実験を行ったが、個人体型への適合性は認められなかった。これは、自分のサイズではあっても他人の体型情報に基づいているためと思われる。